
IS - インフィニット・ストラトス - 黒の騎士 The Black Knight

ライお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS - インフィニット・ストラトス - 黒の騎士 The Black Knight

【Nコード】

N4688Q

【作者名】

ライお

【あらすじ】

もしも、一夏のほかに男のIS登場者がいたら、、、かなりチートになっています、それでもよろしければ、どうぞお楽しみください。

噂の騎士（前書き）

ISを読んで、勢いで書いてみました、こんな子じゃないと思う方は読まないほうがいいです、かなりのご都合主義です。

噂の騎士

ISそれは、人類の憧れであつた空へと飛び立てる「兵器」だつた。これは、そんな「兵器」を動かせてしまったある一人の少年の物語

IS - インフェニット・ストラテス - 黒の騎士 The Brack Knight

第一話 噂の騎士

- 一夏目線 -

「最近出てきた黒騎士の話しててる？」

「うん、凄く強いんだってね。」

「あと、男だつてことですね。」

「一夏君のほかにもISを動かせる人がいるなんてびっくりだよ。」

クラスの皆が一斉にこっちを見る、

黒騎士、俺以外に唯一ISを動かせる男、本来ISは女性しか動かせないはずだつた、

しかし世界でISを初めて動かせた男俺こと一夏は、今物凄く気まづい空気の中にいる。

「こんなに噂になるなんてね、どう一夏ほかに動かせる人が居て」

「どうしたもこうしたもないだろシャル、第一どこの誰かも分かつ

てないんだから。」

「確かにねー、男かどうかもわかんないだし。」

でもどんな人なんだ黒騎士って、

映像で捕らえきれないほどのスピードの起動力で動くもんだから、モニターで見ても大まかな輪郭ぐらいしかわかんないし、でも一回あつて話しがしてみたいな。

- ??? 目線 -

「今度は何処だ？」

「ポイントA - 19 に向かってください。」

「了解した。」

さて今度はどんな奴が俺を楽しませてくれるのかな？

- 一夏目線 -

「専用機を持っている生徒たちに通告、至急職員室の山田まで来てください。」

「何だ？ 一体？」

「さあ？」

「一夏、あんたなんかしたの？」

「おい、鈴それはないぞ。」

「でも、一夏さんならありえますわね。」

「ひでえ冤罪だ。」

「つかい方がまちがっているぞ一夏。」

「え、マジ?」

「とにかく急いで行こうよ。」

「そうだな、行こう。」

「???目線」

「さて、殺りますか。」

ライフルを構える。

「俺を退屈させないでくれよ、IS学園の諸君。」

噂の騎士（後書き）

ライお さてと、はっ殺気!!

伯夜 更新しろ!!この馬鹿作者!!

ライお あ q s w で f r g t ひゅじー p … @ …」

攻防（前書き）

（。友）なあなあ

（俺・ω・）何だ？

（。友）PC室だけじゃなくて家で書いたら？

（俺・ω・）！！

攻防

第二話 攻防

- 一夏目線 -

いきなり衝撃がやって来た、地震かと思ったのもつかの間耳を劈くような爆音が来た。

「なっなんだ一体!？」

「これは、敵襲か!？」

ラウラが叫ぶ

「一体何処の誰ですのこの学園を襲撃する大馬鹿者は。」

「おいお前ら無事か？」

「織斑先生一体なにがどうなっているんですか？」

「落ち着け篠ノ之、

今ISS学園は敵の襲撃を受けている、お前ら専用機持ちに戦闘をしてもらう。」

「敵って何処の誰だよ千冬姉」

「しるか、早く行け生徒の避難が終わり次第教員もそちらに向かう。」

「分かりました教官。」

「敵の現在地はIS学園の約200m上空だ、いいかお前らこれは訓練じゃない実戦だ。」

「「「はい」「」」」

「???目線」

「さて、そろそろかな?」

そう思っていると、下の方から6機のIS

「やっと来たか、待ちくたびれたぜ。」

ライフルを構える

「さあ、楽しませてくれよ?」

「夏一目線」

「見つけた!!」

黒いISが一機あいつか!!

「遅かったな待ちくたびれた、さあ殺ろうか?」

そんな言葉が聞こえるや否や急に体が動かなくなった、

「何だお前殺気を食らうの初めてか?」

こゝ、これが殺気ほんとに体が動かない周りのみんなもつらそうだ。

「ふん、この程度なんてこと無い。」

ラウラぐらいかよまともに動けるの

「へえ、さすが軍人じゃあ行くぜ？」

「来い、貴様などすぐ塵にしてやろう。」

・ラウラ目線・

黒いISから放たれた殺気は尋常ではないものだった、こいつは只者では無い。

「食らえ!!」

持っていたサブマシンガンで牽制射撃をしてくる

「ふん、そんなもの。」

こちらも構える、

「消えろ!!」

停止結界を張り巡らせ、、

「捕らえた!!」

「何!? 機体が動かん!？」

「これで終りだ!!」

レーゲンのレーザー照準を奴の胴体に合わせたその時

「なーんてな。」

奴が急加速で私の元に迫ってきた

「なんだと!!」

驚いている私に奴のサーベルが迫って来ていた

「あばよ、軍人さん。」

衝撃に備えて、身を固めるがその前に奴がいきなり距離をとった

「くっ、速い!!」

「危ねーな、不意打ちとは卑怯じゃないの白いの？」

一夏がいつも間にか私の隣にいた

「一夏もう動けるのか？」

「おう、悪かったなラウラけどもう皆動けるぜ!!」

見てみると皆がああ黒いのを追いつめていつている

「はあああああああああ」

箒が鋭い斬撃を

「いけえええええ」

鳳が重い一撃を

「食らいなさい!!」

「当てる!!」

セシリアとシャルが二人のサポートを

「いこう、ラウラ!!」

「ああ、行くぞ!!」

そして私と一夏も加われば、

- ??? 視線 -

こいつは予想外だねえ、さてどうするか？
まあ、でも、これで『本気』を出せるねえ
クツツツツツツツツ

さあショウタイムの始まりだ!!

攻防（後書き）

ライお 一日に二話投稿してやったぜ！！

伯夜 へえ、で俺のほうは？

ライお （？・ω・）

伯夜 恋姫の方だよ、何で書かないんだ？

ライお 落ち着け、落ち着くのだ伯夜、coolだcoolになるんだ！！

伯夜 問答無用！！

ライお アーーーーーーッ

本気（前書き）

（俺・ω・）アイツにメールしとこう

（。・友）あ、ライおからメールだ・・・

Σ（。・友）これ俺だったの！！

（俺・・）H A H A H A

本気

第3話 本気

- 一夏目線 -

なんだこの違和感、なんだか嫌な感じがしてたまらない、ふと、黒いISの奴の顔が見えた、

その顔は、、、

笑っていた、、、

「皆ツツ奴から離れろおおおおお」

気が付いたらもうすでに叫んでいた
俺の声に一瞬皆が止まったが、事態を把握してくれと一斉に距離を取った

その瞬間奴のISが光輝きだした。

そして、光が収まるとそこには悪魔を思わせるISが存在していた。
勝てない、そう素直に思った。

どんなに戦うイメージを出してみても自分がやられるイメージしか
沸かなかった、、

「さあ、行くぞ？せいぜい足掻いてみせてくれ。」

そう言った瞬間もの凄い衝撃が俺を襲った

「ぐわぁッ」

「おいおい、ちょっと蹴っただけで大げさだなあ、おい」

ちよつとだと？今のがちよつとだったら千冬姉のチョップはなんだ？

「なんだ、少しは楽しめるかと思ったんだが拍子抜けだな、じゃあ
終わらせてやるよ。」

奴が俺たちから距離をとる、

「あばよ、もう二度と会うことも無いだろうしな。」

銃口に物凄いエネルギーが集まってるのが分かる、

「全員まとめて消えろ。」

この場所はIS学園の真上！！

避けたら皆に被害が、、

「ッここまでか」

そう呟いたその時、、

一本の閃光が黒い奴を貫いた

「なんだと!!」

見上げると、全身装甲の黒いボディをしたISが翼を羽ばたかせながら

2つの銃口をもったライフルを構えていた。

「だれだてめえ!!」

すると、

「黒騎士、世間からはそう呼ばれている。」

こいつが黒騎士、

本気（後書き）

ライお さてと、、

伯夜 おい馬鹿作者、まだOHANASIが済んでないのにどこ行くつもりだ？

ライお 何かイントネーション違うんでねえかい！？

伯夜 黙れ、早く俺の方も書け！！

ライお だが、断る！！

伯夜 そうか、そんなにOHANASIしたいか。

ライお 逃げるが勝ち！！

||||\（俺・ω・）／

||||\（俺・ω・）／（^・^伯）マテ

ライお アーーーーーッ

黒騎士の力（前書き）

今日もやる事多すぎる！！
睡眠時間が、足りない眠い！！
だが小説はあげるんだ！！

黒騎士の力

第4話 黒騎士の力

- ??? ? 目線 -

マジか、軽い任務のつもりだったのにまさか噂の黒騎士がやって来るとはねえ

「何で邪魔しやがった、黒騎士よお？」

「答える必要が無いな。」

「そうかい、だったら無理やりにも答えさせてやるよ!!」

「出来るのか？弱いもの虐めしか出来ない貴様に？」

ぷちつと来たぜこいつは

「ぶっ殺す!!」

全部の銃器を構えて

「落ちろ!!」

ぶっ放す

- 一夏目線 -

黒騎士目がけて銃弾やレーザーが飛んでいく、当然回避を、

「『『『え、えええええー！！！！！！』』」

皆が叫ぶ当たり前だ、黒騎士は全てともに受けたのだから

「なんだあ？噂は所詮噂ってかあ？あっはっはっはっは」

あの量の弾幕をともに食らったんだ、無事なわけが無いんだが

「何だ、やはりこんな物か。」

無事・・・つか無傷・・・

「『『『え、えええええー！！！！！！』』」

「良いリアクションだ、それが見たかった。」

結構軽い黒騎士、なんかイメージがどんどん崩れていく・・・

黒騎士が巨大なライフルをしまうと、今度は何か筒の様な物を取り出すと、

その筒から刀身が出できた！！

「さて、覚悟はいいか？行くぞ！！」

その瞬間、姿が一瞬ぶれ黒騎士は奴の隣にいた！？

「な、いつの間に！！」

「おっと、動かない方がいいぞ。」

「何言つてやがる!!」

「忠告はしたからな。」

奴がライフルを構えようとしたら、

武装だけが剥がれ落ちていった・・・

「『『『え、ええええええ————!!!!』』』」

「OK ナイスリアクション!!」

ああ、俺の中のイメージが・・・

黒騎士の力（後書き）

ライお さてと、、あれ？いつもだったら伯夜がぼこりに来るの
だが？

伯夜 どうせ俺なんて、、

ライお ワオ、トラウマモードになってる！！

伯夜 皆、消えちゃえ、、

ライお 待て伯夜それだm垂qw sでrf g t yふじこ1 p ;

調k yもとい、教育（前書き）

（。　。　友）ねえねえ

（俺・ω・）何だ？

（。　。　友）この前書きに出してくれって奴が来たよ

（俺・ω・）物好きだな、だがそれがいい

（。　。　友2）よろしく

調k yもとい、教育

第五話 調k yもとい、教育

- ??? ? 目線 -

今、俺は何をされた、何でISの武装が全部ぶっ壊されてんだ!?

「さて、お仕置きタイムだ覚悟は良いか？」

「ひッ! !」

柄でもない声が出ちまったがそれどころじゃねえ!!
今日の前にいるのは騎士でも何でもねえ、ただの悪魔だ!!
逃げないと、逃げないと逃げないと逃げないと!!

「う、うわあああああああ!! ! !」

180度方向転換、フルスロットルで逃げる!!

「何処に行くんだ？」

何で目の前にいんだよおお

「さあ、いい声で鳴いてくれ。」

「いやあああああ!! !」

- 一夏目線 -

何て言ったら良いんだろっ、取り合えず・・・

「さてと、質問だ、お前は何処の国の者だ？三秒以内に答えろ」
2・「国は捨てた！！」ほう？」

「いや、俺たちは、国に捨てられた。」

「なるほど、人間進化計画実験の被害者か。」

「ああ、そうさ家族、性格、記憶、戸籍全て捨てられたのさ！！」

「人間の脳内でつかわれていない60〜70%の部分を使おうとした結果寿命が半分以上になる、もはや呪いだな」

「うるさい！あんたに何が分かる！！」

「わからんよ、お前と私は違うのだから。」

「だったら！！」「しかし！！」「ッ！」

「お前、私の元に来い。」

・

・

・

「は？」

こいつ何を言っている？私と来いだと？何を考えている？

「いきなりなに言っただあんた？」

「俺について来い！！」

「だから、何いって」「俺について来い！！」・・・

「おまえn」「俺について来い！！」・・・

「いいk」「俺について来い！！」・・・

「てm」「俺について来い！！」・・・

「だああああ」「俺について来い！！」あああああああ

「俺について来い！！」

何でだろう、胸の中がだんだん熱くなってきた

「俺諦めないぜ、だから俺について来い！！」

ついていてもいいかもしれない・・・

調k yもとい、教育（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイム始まるよー

伯夜 って、何やらせやがる馬鹿作者！！

ライお だっていつも俺がアーアーってなっても面白くないだろ？

伯夜 自業自得だろ、だったら早く俺の小説を書きやがれ！！

ライお まあ、インスピレーションが降りてきたらな

伯夜 うぜえ

転校生は黒騎士（前書き）

（俺・ω・）さて、今日も小説を書くか

。・友（）なあなあ

（俺・ω・）なんだ？

。・友（）小説書きたい

（俺 ω（）書けば？

転校生は黒騎士

第六話 転校生は黒騎士

- 夏目線 -

黒い奴の襲撃から、2日後、事件は起こった。

「おい、お前らチャイムはなっている早く席に着け。」

千冬姉がいつものように朝のHRを始める。

「今日は、HRの前にお前らに嬉しいお知らせだ。」

お知らせ？なんだろう、なんだかわかんないけどすごく、やな予感がします、、、

「おい、お前ら入ってこい。」

ガラリと教室の扉を開けて入って来たのは、2人の女子だった。

「転校生の十六夜とアイファだ、二人とも挨拶しろ。」

「アイファだ、以上」

短ッ初めての俺の時より短ッ

「こら、アイファちゃんと自己紹介しなさい、ごめんなさい皆さんアイファ緊張してるみたいで、」

と、ちいさい方が子が付け足した

「十六夜 蒼夜と申します、皆さんよろしく」ニッコ

・
・
・

ぶはああああああああああああああああああああああ
ああああ

クラスの大半が鼻血を出してぶっ倒れた・・・

「おや、皆さんいいリアクションですね。」

ん？何だか聞いたことあるフレーズが耳に入ってきたぞ？

「おいおい、お前ら十六夜は男だぞ。」

ホワイ？今千冬姉はなんて言った？

・
・
・

男だと？

・
・
・
あんなに可愛いのに？

・
・
・

「「「「ええええ――――」
「「「「」

「いいリアクションです。」

こいつだったのか、黒騎士、

転校生は黒騎士（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイム始まるよー

ライお さて、第2回目となりました、わいわいあとがきタイム、
今日は新キャラ

蒼夜を紹介しよう、カモン蒼夜！！

蒼夜 はいはい、何かご用ですか？アホ作者

ライお なん・・・だと・・・！？

伯夜 お、お前話分かるな

ライお 待て、蒼夜お前をそんな子に設定した覚えがない！！

蒼夜 そんな事無いですよアホ作者、私はこんなキャラですよ

蒼夜 詳しくは、次回のキャラ紹介で

伯夜・蒼夜 またねー

ライお なぜだあああああああ

主人公設定（前書き）

ストックがもう無い、、
どうしよう、、

主人公設定

主人公設定

名前

十六夜 蒼夜

身長

165cm

体重

67キロ

性別

男

一人名称

私、俺↑切れてる時のみ

容姿

どちらかと言えば女顔

10人の内8人が振り返るほどの美少年

黒髪、背中に付くぐらいのロングヘア

普段はポニーテールだが解くと

10人のうち10人振り返る男の娘に、、

性格

めんどくさい事が嫌いだが一度決めたら投げ出さない。
子供が好き(like)

ガキが嫌い

かなりのSツーカーDS

実は甘いものが大好き、食べるとその笑顔で皆が大変なことに酔っ払うと甘え上戸になる↑大変な破壊力を持っています

特技

射撃、剣術、家事、料理、

IS性能

名前

無月

外見

ウイングガンダム0（EW）の白を黒く蒼を赤くしたような感じ、

武装

ツインバスターライフル、ビームソード、マシンキャノン×2、ハイパージャマー

基本的に近接戦闘しかしない、ハイパージャマーで見えなくして一気に仕掛けるか、

機動力を生かしたヒットアンドウェイで攻める。

しかし切れるとツインバスターでローリングぶっぱしてくる。

もちろん笑いながら。

名前

アイファ

身長

170cm

体重

5zyつわ、何をするやめ、あwse drift gyふじこip;

性別

女

一人名称

俺、私↑蒼夜の前だけ。

容姿

かわいいよりかっこいいが似合う顔立ち

美人と言っていていいと思う

ショート of 赤髪

性格

ぶっきらぼうで短気

男口調、ヤンキーも若干入ってる

必死になって頼まれると断れない姉御肌

蒼夜の前だと調kyもとい教育のおかげで女口調になる

特技

特に無い！！言っ飛ばせば器用貧乏！！

IS性能

名前

ogre?

外見

普段は重装甲だがoverinstallを使うと名前のような鬼もしくは悪魔を思わせるフォルムになる

武装

通常時

ライフル、サブマシンガン、ミサイル、バルカン、ショートソード
overinstall時

サイス、ハンマー、サブマシンガン、ビームライフル

装甲を頼りに撃ちまくる、弾幕はパワーだぜ ぐらい撃ちまくる
本気になるとoverinstallして、斬ってゝ殴ってゝ
と、とある撲殺天使の用に攻める

主人公設定（後書き）

蒼夜 ほら、ここにあるじゃないですか、ドSって

ライお まさか、作者にまで影響するとは、思ってもみなかったぜ

伯夜 やっぱ、馬鹿作者だな

蒼夜 ええ、アホ作者ですな

ライお 悔しいでも何も言い返せない！！

主人公黒騎士とお話する（前書き）

（。 ㇿ 友）大変だー

（俺・ω・）どした？

（。 ㇿ 友）主人公設定しかできない

（俺・ω・）ふーん

主人公黒騎士とお話する

第7話 主人公黒騎士とお話する

- 一夏目線 -

俺は休み時間になった瞬間十六夜の所に猛ダッシュで向かう

「おい、十六夜お前黒騎士だろ!!」

「いきなりやって来て初対面の人に挨拶もなしに開口一番に決定事項とは礼儀がなっていないですね。」

「ごめんなさい。」

あれ、何で今俺は、あやまつたんだろう？

「ふむ、素直に謝罪が出来るのは評価しましょう。」

何でだろう、ここにいるのが十六夜じゃなくて怒った時の千冬姉に見えるよ・・・

「それで？何の用です織斑一夏君。」

わお、かなりご立腹のお様子、俺何かした？

「え、えーと、十六夜、君は黒騎士なのかい？」

「何故、その質問に私が答え無いとならないのでしょうか？」

「その、確かめたいから？」

「ふむ、では、対価は？」

「へ？」

「私はただ情報をあげるほどお人よしでは無いので、そうですね
10万円ほど頂きましょうか。」

「え？ええ？」

な、何言っているんだこいつ、10万払えだど？

「どうなされたんです？払わないんですか？」

ど、どうしよう、そんな大金もってねえよ、、

「え、えーと、あの、その」

「ふふふ、冗談です。」

「えっ？」

「織斑君はもしろいですね、思った通りに動いてくれるんですか
ら。」

冗談・・・な、なんだ冗談か！

「びつくりした、いきなりそんなこと言うなよ。」

「ふふふ、いきなりは誰でも驚くんですよ、今度から人に物を尋ね

るのは、順序良くお願いしますね。」

あ、確かにいきなり聞いたしたら誰でも驚くのはあたり前か

「悪い、その、焦ってたんだ、お礼も言いたかったし。」

「ここでお話するのも難ですし、お昼休みに食堂で落ち合いましよう。」

「あ、ああ分かった。」

「皆さんにも伝えておいてください、あ、それと対価は食堂のパフエでいいですよ。」

「って結局対価は取るのかよ!」

「織斑君、此の世にただの情報ほど当てにしていけない物はありませんよ。」

主人公黒騎士とお話する（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイムはじまるよー

ライお さて、第三回となりましたわいわいあとがきタイム

伯夜 何回までやる気だよ・・・

ライお 飽きるまでさ！！

伯夜 うん、一回お前滅べ、むしろ消滅しろ

ライお だが断る！！

伯夜 で、今日は何をやらせるつもりだ？

ライお 前回に引き続き、オリキャラの紹介だ、カモン

アイファ 何だよ？

伯夜 お、蒼夜に拉致られた奴か

アイファ ここどこだ？

ライお 不思議空間さ！

アイファ はあ？

伯夜 ほつとけ、馬鹿なだけだから

アイファ そうか

ライお さて、アイファの事なんだが、皆さん一話／＼三話まで主人公と思っていた方も居るんじゃないでしょうか？

伯夜 何読者の方騙してるんだよ馬鹿作者

ライお えー、ぶちやけちゃうと、下書きの時はこいつは主人公でした

アイファ は？何言ってるんだお前？

ライお 三話書いているときに、あれここで主人公変えたらおもしろいんじゃないか、と思いいきなりですが変えました

アイファ つまり、本当だったら俺が黒騎士だったのか？

ライお うん、そうだね

アイファ ふざけんなー！

ライお ぎゃああああああああああああああああああ

伯夜 えー馬鹿作者が続行不可となりましたので今日はこの辺で

伯
夜

ま
た
ね
ー

黒騎士の魅力（前書き）

（俺・-・）はあ、書くことがないっす

。 （。 友2）にやにや

（俺・ω・）何だよ

。 （。 友2）Z A M A A

（俺・ω・）・・・

黒騎士の魅力

第8話 黒騎士の魅力

- 一夏目線 -

十六夜と昼と一緒に食べる約束をして、その場を離れた

「どうだった？一夏、十六夜の反応は？」

「うーん、ラウラに言われたとおり目を見てたけど一回も上を見て無いぞ。」

「そうか、やはり簡易的な方法では奴は見ぬけんか。」

「どういことですか？」

「人間は嘘をつこうとすると無意識に目線が左上に行くんだよ。」

「へえ、詳しいなシャル。」

「えへへ、この前テレビでやってたんだよねラウラ？」

「ああ、ああいう番組は見ていてもおもしろいし知識も付くからな。」

たぶん、世界一受けたい。。とか見ていたんだろうな

「あ、そつだ昼飯を十六夜と食べる約束をしたから、皆もその時来ればいい。」

「む、良くやったな一夏、それでこそ私の嫁だ。」

「たしかに、それとなく質問すれば向こうも答えてくれるかも知れませんわね。」

「昼休みに学食の前で約束してるんだ、鈴にも伝えるか。」

「そうだな、私の方から伝えておこう。」

「んじゃ頼んだぞ箒。」

「アイファ目線」

「おい、いいのかあいつらに簡単にばらして。」

「いいんですよ、敵対しているわけじゃないんですから。」

蒼夜がのほほんと答える、しかし私はだまされない

「どうせまたなんか仕込んでいるんだろ。」

「おや、ばれちゃいましたか。」

そう、蒼夜はこう見えてもかなり腹黒い、自分が楽しめればなんだってするような男だ

「くれぐれも私を巻き込むなよ。」

「えゝなんですかゝ最近アイファ冷たいですゝ」

「蒼夜には、何回もはめられたからな。」

「むう、これはまた新しい手段を考えなくてはなりませんね。」

「考えるな!!」

ビシツつとチョップ一発

「あいた、暴力反対ですよ。」

「あんたは私に何回暴力ふった？」

「あれは暴力ではありません、躰です。」

「あたしやあんたのペットか!!」

「え？違うんですか？」

「ちつがあう!!」

「ああ、ペットじゃなくお犬さんでしたよね？」

「ちが「あの時は認めたのに?」「うう」

だめだ、やっぱり蒼夜には勝てない、いろんな意味で

「さて、お昼に行きましょうか、アイファ。」

「はあ、やっぱりあの時もつときちんと考えればよかった。」

「後悔しても始まりませんよ、それに貴方は昔より今のほうがいい

と言ってくれたじゃありませんか。」

ああ、そうだ、蒼夜のこういった所に私は引かれていったのか

「さあ、行きましょう?。」

手を伸ばしてくる蒼夜

「はいはい、何処までも付いて行つてやりますよ。」

その手をしっかりと握り返した

黒騎士の魅力（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイム始まるよー

ライお さーて今回のさざり

伯夜 やめる馬鹿作者、国民的アニメを汚すな

ライお ひでえ、少しネタに走ってみたんだけどなにこの仕打ち

伯夜 くだらんことしてるなら帰るぞ

ライお まあ待て、今日は大事なお知らせがある

伯夜 何だよ

ライお 実はだな、この小説PVが20000を超えたんだ・・・

伯夜 は？・・・何て言った？

ライお PV20000超えた

伯夜 馬鹿な、、こんなご都合主義の小説がそんなに人気があるはずが無い！！

ライお 俺もこいつを見たときは驚いたさ、しかしこんな小説でも読んでくれてる皆様がいるんだ、今度なんかお祝いしないとな

伯夜 ああ、そうだな（どう言うことだ馬鹿作者がふざけないなんて？）

ライおさてと、、、イヤッハーーーー！！！！

伯夜 ああ、一瞬でも見直した俺が馬鹿だった

2000PV記念 番外編 (前書き)

今回の小説は、記念として書いたものですが、もの凄いキャラブレイクがおきております、見ないほうがいい読者の方もいるかも知れません、見たくない方はいますぐ前の画面にお戻りください。

良いんですかね？ではどうぞ

2000PV記念 番外編

番外編 黒騎士達の秘密

- 千冬目線 -

今、私の部屋には一人の客がきている

「まったく、お前にはいつも驚かせられるぞ、蒼夜。」

「ふふふ、いいじゃないですか、人を驚かしその反応を見るのが私の趣味なんですから。」

「まったく、お前ぐらいだよ私と束に心底恐怖を叩きつけた奴は。」

だが、そのおかげで束もこいつに興味を示したのもあるがな

「ですが、貴方も大変ですね千冬、ココにいるのはあの事件が関係しているでしょう。」

「ああ、まったく世話をかける弟だよ一夏は。」

決勝戦の日の事は今でも思い出す事が出来る、束が一夏の居場所を探し、

私と蒼夜で邪魔する奴らを倒していった、今思うとあの時だけだったな私が誰かに背中を預けたのは

「お前にもずいぶんと迷惑をかけたな。」

「何言ってるんですか、友の一大事を知らん振りできるほど私は外道では無いですよ。」

「いや、お前は十分外道だ。」

その瞬間空気が凍った

「おや、何を言っているんです千冬、今のは自分の立場を理解した上での発言ですか？」

「ごめんなさい!!」

高速で土下座をする

「分かればいいんです。」

「本当か、縛り付けて鞭で叩いたりしないか？」

「おや、やって欲しいんですか？」

蒼夜が意地の悪い笑みを浮かべてこちらを見る

「そ、そんなわけ無いだろうが、わ、私を束と一緒にするな!!」

確かに縛られて身動きできない時に蒼夜のあの表情を見ると興奮を
って何を考えているんだ私は!!

「そうですか、して欲しいならいつでも言うってください。」

「まったく、このドSめ。」

「否定はしませんよ、むしろ認めます。」

はあ、こいつと話すといつもこうだ。いいように会話のペースを持つていかれる

「おや、もうこんな時間ですか、千冬そろそろ失礼させてもいますね。」

「ふん、さっさと帰れ。」

「ええ、ではおやすみなさい千冬。」

ぱたん、と扉を閉め蒼夜は帰って行った

「やれやれ、さて私も寝るか。」

今日はいい夢が見れそうだ、なにせ初恋の異性が尋ねて来てくれたのだから

「お休み、蒼夜。」

2000PV記念 番外編 (後書き)

いかがでしたか？

こういつた番外は記念として書かせていただきます、やるときはあ
とがきにて予告いたします、これからもIS・インフィニット・ス
トラトス・黒の騎士 The Black Knightをよろし
くお願いいたします。

アカクソマルクロキシ 前編(前書き)

(俺・ω・) 暇だなー

(。・友) 恋姫書いてやれよ

(俺・ω・) だが断る!!

アカクソマルクロキシ 前編

第9話 アカクソマルクロキシ 前編

- 一夏目線 -

「さて、十六夜は何処にいるんだ？」

「実は来てないなんて落ちは無しだからね。」

「鈴、いくらなんでもそれは無いだろ。」

「筈、あんたあいつのぶっ壊れさ分かって無いわ、あたし達の予想を斜め上どころか逆に下に行くような奴なのよ。」

確かに、鈴の言う事に否定できないもしかしたら本当にきていないのかも

「あ、いたよ一夏!!」

「織斑君、こつちですよー」

食堂の中十六夜が手を振りながら、俺を呼んでいた

「普通にありますわね。」

「行くぞ、飯が冷める。」

「あ、ラウラ待ってよー」

「どうした一夏早く行くぞ？」

「ああ、行くか。」

さて、どうなる事やら

・アイファ目線・

まったく、蒼夜の野郎、飯ぐらい自分で取りにいけよ!!

「でも、あれ見ちゃうと断れないんだよな、はあ。」

あの笑顔は、反則だろ免疫持つて無いと必ず落ちるなあれは

「ん？やつと来たのかあいつら。」

織斑一夏とその仲間達が蒼夜のテーブルに近寄って行くのが見えた

「あいつらは蒼夜にどう遊ばれるのかねえ。」

まあ、俺には関係無いし

「早く飯取りにいかねえと、俺がやばいしな。」

さてと、何にするかな？

アカクソマルクロキシ 前編（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイム始まるよー

伯夜 なんだお前この前の記念小説でのキャラ、めちゃくちゃ似合
わなかったぞ

ライお がーん、がんばって敬語とか使いまくったのに

伯夜 はいはい、ワロスワロス

ライお ちくしょおおおおおお

伯夜 あーあ、いつちゃった

アカクソマルクロキシ 中編(前書き)

(俺TωT) ストックがな――――い

アカクソマルクロキシ 中編

第10話 アカクソマルキシ 中編

- 夏目線 -

「それで？私に何を聞きたいのですか、織斑君。」

「まず、十六夜お前が黒騎士なのか？」

「はい、そうですよ。」

「やっぱりな。」

「次は私が良いか？」

「どうぞ、ボーデヴィヒさん。」

「何故、お前はISを動かせる？」

確かに、俺の他にISを動かせた男は報道されていない

「簡単な話です、私の無月は正式にはISでは無いからです。」

「ISじゃないだと？」

え？ISじゃないの？

「はい、無月はISのコアが無いんです。」

「コアが無いだと！？だったら機体そのものが動かないだろう！！！」

「人の話をきちんと聞きましょうね篠ノ之さん、私はISのコアが無いと言ったんです。」

どうゆう事なんだ？

「だからコアが無いんだろ？」

「いいえ、コアはあります。」

「へ？どういう事なんだ？」

「ISのコア以外のコアで私の無月は動いています。」

「IS以外のコアだと？」

「はい、コアゼロと言います」

「コアゼロ？」

「正式にはコアゼロシステムです。」

「それは一体何なんだ？」

「コアゼロは、篠ノ之東博士がISコアを作っている間に作られた試作品みたいなものです。」

「試作品？何故だ？」

「コアゼロとISコアの違いは、脳にかかる負担です。」

「負担？」

「コアゼロは、戦闘の予測データを搭乗者に直接伝達します。」

「???」

「まあ、いわば未来予知みたいなものが出来るんです。」

「そんなシステムが何故ISにはなくなっただ？」

「その負担が物凄いものなんです、現に私以外にゼロは使えません。」

「十六夜はどうして使えるんだ？」

「それは、秘密です。」

「おいおい、ここまで来たのにそれは無いだろ。」

「なら織斑君、これを聞いて黒い服を着たお兄さん達に一生狙われたいですか？」

「イイエイヤデス。」

「なら聞かない方がいいですよ。」

アカクソマルクロキシ 中編（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイム始まるよー

ライお ネタが浮かばん！！

伯夜 開口一番に言う言葉じゃねえだろうが！！

ライお 書くのは楽しいのだが、ネタがな、思い浮かばんのだよ

伯夜 浮かばせるのがお前の仕事だろ！！

ライお はぁ癒しが欲しい

伯夜 ろくに仕事もしないでよく言えるな

ライお そうだ、ゲームやろつと

伯夜 書けよ、小説書けよ！！俺の小説を！！

ライお だが断る！！

ぷちっ

伯夜 フーン、ソウユウコトイウンダ

ライお おつとまずい、スイッチが入ってしまったか

伯夜 キエチャエ、オマエ

ライお 作者の命が危険なので今日はここまで……さようなら……

ダッ
シュ

伯夜 マテヨ、マツベキダロ、マタナイトオカシイ、マツンダロ、
マ・テ・ヨ

ライお がちでやべえ……

アカクソマルクロキシ 後編（前書き）

ネタが、ネタが浮かばない！！

アカクソマルクロキシ 後編

第11話 アカクソマルクロキシ 後編

- 夏目線 -

「おい、蒼夜、持って来たぞ。」

ん？転校生のアイファさんが何で十六夜の昼食を持ってくるんだ？

「ありがとうございます、アイファさん。」

「二人は知り合いなのか？」

「ええ、そうですよ織斑君、アイファさんは私と同じ場所から来ましたから。」

「同じ場所？」

「ええ、この国の秘密の場所です。」

「これも聞かない方がいいのか？」

「ええ、黒い服のお兄さん達が来ちゃいますから。」

「そうか。」

「そういえば、十六夜さんあの黒いISは何処に行っただんですか？」

「あのISは私が回収しましたよ。」

「搭乗者は？」

「同じように回収して私が面倒見えています。」

「チッ！」

アイファさんがなぜか舌打ちした？

「どうしたんだアイファさん？」

「なんでもねえよ。」

「こら、だめですよアイファさん、一夏君は心配して言ってくれたのに。」

「ふん、余計なお世話だ。」

むっ、なんだこいつヤンキーかなんかか？

「おい、私の嫁に何言っている？」

「そうだよ、一夏はアイファさんの事心配してくれているんだから。」

「なんだ、てめえらやら」「アイファさん？」うつ！

いつ、十六夜の後ろに千冬姉並、いやそれ以上の怒りオーラが！！

「いい加減にしましょうね？それともO H A N A S I Iしますか？」

なんかイントネーションが違っけどめちゃくちや怒っているのは伝わってくる!!

「ごっごめんなさい!!」

謝った!!アイファさんが謝った!!

「次はありませんよ?いいですね。」

「はい!!」

すげえ、、十六夜だけは絶対に怒らせないようにしよう、うんそうしよう

「そっいえば、織斑君?」

「は、はい!!」

何だ?俺何した?早速怒らせたか?

「パフェはまだですか?」

「「「え?」「」」

皆の頭の上にクエスチョンマークが・・・ってあ、そっだ俺十六夜にパフェ買わなきゃいけないんだっけ!?

「今すぐ買ってきます!!」

・・・少年買い物中・・・

「買って来ました!!」

「確かに、対価は頂きました。」

ふう、思い出してよかった

「さて、いただきますか。」

パクッ

・

・

・

・

もむもむ

・

・

・

にへー

ぶはあああああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああああ

「な、何て破壊力なんだ!!」

「め、免疫持つへいへもこのはいりよふか!!」

「おや、皆さんどうなさったんです？」

こっこいつ自覚なしかよ

ぱたりと倒れる血っ血がたりな、

おまけ

- 千冬目線 -

「おい、蒼夜お前何をした！！」

一夏や教え子たちが皆鼻から血を出して倒れたと聞いて、一緒にいた蒼夜に話を聞く

「何もしてませんよ千冬、私がパフエを食べたら皆鼻血出して倒れてしまったんです。」

パフェを食べた、と、

「蒼夜、あれだけ甘いものは一人で食べろといっただろう!!」

アカクソマルクロキシ 後編（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイム始まるよー

ライお ネタがゝネタが浮かばないゝ♪

伯夜 ついに壊れたか

ライお うっさい！！お前に何がわかる！

伯夜 書いてもらえない気持ちはわかるぞ

ライお そ、そうか

伯夜 この馬鹿作者何とかしてさっさと物語を進めてもらいたいものだ

ライお アイディアはあるんだけどねえ、形にできないむしろ文にできない

伯夜 ほんと馬鹿作者だよこいつは

黒騎士のIS（前書き）

（俺・ω・）更新が遅れまくりだ！！

（。|。 友）俺なんか、うpも出来てない、、

（。 友2）僕は、うpした

黒騎士のIS

第12話 黒騎士のIS

・一夏目線・

今日は千冬姉の授業なんだが、、

「さて、今日はお前らにISでの模擬戦闘を行ってもらつ、名前を呼ばれたものは前に出る。」

何でいきなり試合なんかやるんだろう？

「シャルロッド。」

「はい。」

「ラウラ。」

「はい！」

「織斑。」

「へ？」

「以上三名はチームとなる、対戦相手は、十六夜。」

「は〜い。」

「以上。」

へ？一人だけ？

「え、ちよつま「早くアリーナに行け！！」は、はい！！」

・千冬目線・

「まったく。」

「千冬。」

「ん？」

振り返ると、蒼夜がいた

「いいんですね、やっちゃっても。」

「あまり、めんどくさい事をするなよ。」

「分かりました、では。」

そう言うと、蒼夜はアリーナへ向かって行った

「久々にあいつの実力を見れるといいが。」

・一夏目線・

「いきなり模擬戦なんて、何があつたんだ？」

「さあ？、でも十六夜君と戦えるのは嬉かな。」

「私は、あいつとの決着をつけたかったがな。」

「とにかく行こう、十六夜が待ってる。」

3人でアリーナの入場カタパルトに向かう

「行くぞ!!」

「うん!!」

「ああ!!」

カタパルトを抜けると、そこには、

黒い騎士がいた

「待っていたぞ、始めよう。」

黒騎士のIS（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイムスタート!!

ライお 燃え尽きた、燃え尽きたぜ真っ白に

伯夜 はいそこまでーお前にボクシングは似合わん

ライお うっさい、現に燃え尽きてんだよ!!

伯夜 はいはい、ワロスワロス

ライお なんでこんなキャラ作ったんだろう俺、、

伯夜 俺に聞くな

ライお 少し変えてみるか、、

伯夜 うえ？、まッ待て落ち着け、あ、ちょ、そこ駄目あああああ
あああ

ライお 上手に出来ました - -

伯夜？ あれ、僕何されたんだっけ？

ライお・・・

伯夜？　どうかしましたか？主？

ライお　似合わねえ！

伯夜　てめえがやったんだろぅが！！

黒キ騎士トシテ、、（前書き）

（俺・ω・）風邪ひいた、足怪我した、2月はついてない

（。・。友2）僕も手怪我した

（。・。友）俺、健康！！

（俺「ω」）黙れ！！小僧！！

（。・。友）元気じゃん

黒キ騎士トシテ、、

第13話 黒キ騎士トシテ、、

- 一夏目線 -

一瞬、気を抜いて見とれてしまった、普段とはまったく違う目の前の人に

「どうした？呆けている場合か？」

「い、言われなくても分かってる!!」

声を掛けられなかったらずっと見とれていたかもしれない、それほどに今目の前にいるISは美しかった

「さて、、この場に居ると言う事は、俺と戦う、と言う事でいいんだな？」

「あ、ああ、そうだ!!」

「そうか、では覚悟は出来ているか？」

「何？」

「今から貴様らは、絶望を知ることになるぞ。」

「何だと？貴様黙っていればいい気になりおって!!」

ラウラがシュヴァルツァ・レーゲンのレールガンを十六夜にむけよ

うとしたとき

「遅い。」

既に十六夜の手には、あの2つの銃口が付いたライフルを構えていた

「発射。」

「な、うあああああああああああ」

「ラウラー!!」

一瞬だった、一瞬で十六夜がラウラを射撃で貫いた

「な、なんだこの威力は!!」

ラウラのISのバリアゲージを見ると、ギリギリ稼働できるほどしか残っていなかった

「ツインバスターライフル、この無月の装備で最高の威力を持つ、本来なら街1つぐらい簡単に消せる。」

「な、何だと!!」

「そ、そんな、もはや核兵器以上じゃないか!!」

「これくらいで驚いているようじゃ話にならないな、、お前らの常識を塗り替えてやろう。」

そう言うや否や十六夜がこっちに突っ込んできた

「織斑、貴様にはこれだ!!」

いつの間にか十六夜の手にはビームで出来た剣が!!

「くッ、雪片!!」

なんとか雪片で防ぐ

「お前にその刀が使いこなせるのか？」

「五月蠅い!!」

「一夏!! 離れて!!」

シャルの音が後ろから聞こえた

「甘い!!」

十六夜が片手でライフルを構えた

「させるか!!」

力を込めて十六夜の体勢を崩す

「チッ!!」

「いっけええええええ!!」

物凄い弾幕が十六夜を襲う

「これは不味いな、、」

その割には冷静だな、おい

「ゼロシステム起動。」

黒キ騎士トシテ、、（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイム始まるよー

ライお いやはあああああああああつきよきよほああ
ああああああああああああ

伯夜 うるせえ！！

ライお ぐしゃるぷげは！！

伯夜 なんだ、ついに壊れやがったのか、馬鹿作者

ライお ふっふっふ、伯夜君、ついについに来たんだよ

伯夜 何がだよ

ライお P V 5 5 0 0 0 超えさ

伯夜 な、何だと！！

ライお 次回記念作品、え？何だ？何が起こった！？

ライお・伯夜 お楽しみに！！

伯
夜

5
5
0
0
0
とかありえねえ
だろ
・
・
・

55000PV記念 なにこのカオス

55000PV記念 (・ω・) 何このカオス

- 夏目線 -

「ちよいとその少年、待ちたまえ。」

声を掛けられ振り返って見ると、そこによく携帯に使われる顔文字が浮かんでいた

「・・・？」

ちよつと待て、顔文字が浮かんでいた？おかしいだろそれ！！

「君にちよいと話があるんだ、聞いてくれないk

「お断りします！！」

【いちは、にげだした。】

【しかし、まわりこまれてしまった。】

「まあ、待ちたまえ」

「いやじゃあああああああ！！」

【いちは、またもやにげだした。】

【しかし、まわりこまれてしまった。】

「少し、落ち着いてらどうだ？」

「落ち着いていられるか!!」

(・ω・俺) ↑こんなのが実際に浮いているんだぞ!!

超怖いわ!!

「何も危害を加えようってわけじゃない、ただ一つ頼み事があるだけさ。」

「な、なんだよ。」

「この手紙を、十六夜に渡してくれ。」

そう言う顔文字は封筒を差し出して? きた

「なんだ? これ?」

「彼に渡せば分かる、頼んだよ。」

「あ、おいちよつと!!」

なんだったんだ? あいつ?

・・・少年移動中・・・

「なあ十六夜。」

「何でしょう? 織斑君?」

「これを渡してくれって頼まれたんだけど。」

そう言っただけで封筒を渡す

「どちらの方からですか？」

「なんか、変な顔文字から受け取ったんだが。」

「・・・え？」

な、なんだ十六夜がとてつもなくいやな顔をしている!!

「オリムラクン？イマナントイイマシタカ？」

「へ、変な顔文字から受け取りました!!」

「ソウデスカ、、」

ぺりぺりと、封筒の糊を剥がして、手紙を読む十六夜

「フッフ、アノアホサクシャドウヤラシニタイラシイデスネ・・・」

い、十六夜が怖い!!

「スイマセンオリムラクンスコシデデキマス。」

「は、はい!!」

十六夜が出て行った後、手紙が机の上に置きっぱなしになっていた

ので少し見てみると

(・ω・俺)

やあ蒼夜久しぶり、君に報告したい事があってね、この手紙を送らせてもらうよ。

実は、君の小説が55000PVを突破してね、お祝いをしようと思っっているんだ、

君にも是非参加してもらいたい、つーかもう参加決定だから、断れんよ(・・)(ニヤニヤ

それと、君には女物のドレス着てもらうから、これも決定事項だ！！

では、当日を楽しみにしておいておくれ。

P S この手紙に書いてある事は、絶対に君には阻止できんよH A
H A H A

・

・

・

なんだこれ？そもそも十六夜の小説って何だ？・・・わけわかんねえ？？？

55000PV記念 なにこのカオス（後書き）

ライお さて、手紙のこともあるだろうし、逃げるか！

蒼夜 ミツケマシタヨアホサクシャ

ライお おおーっと、一足遅かったようだな

蒼夜 ムゲツキドウ、タイショウホソク、ロックオン、ファイア

ライお 何時までも、弱いと思うな、この俺を！！

蒼夜 ！！

ライお てつてててーてつてててーてーD・G細胞

蒼夜 な、それは！！

ライお それ！！

ライお ヲオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

D・Gライお ふっふっふ、どうだ蒼夜、通常の俺に比べ全てのステータスは約100倍！！貴様に今の俺を倒せるか！？

蒼夜 ……キエロ

D・Gライオ な、何この装甲を上回るパワーだとおおおおお
おおおおおおおおおお

蒼夜 もともとが弱いんだから強化しても意味が無いですよ、アホ
作者

ライお むッ無念ガク

0 (前書き)

(俺・ω・) 更新できない、ネタが無い!!

。(友) にやにや

14話 0

く一夏目線く

眩きが聞こえたと思ったたら十六夜がもう居なかった

ゼロシステム、十六夜は未来予知ができるシステムだっていつていたが、どうなるんだ？

「一夏！！上！！」

シャルの叫びが聞こえ、とっさに前に飛んだら

「甘い！！」

十六夜が俺の着地点に回り込んでいた

「がはっ！！」

まともにけりを食らった、しかもピンポイントで鳩尾に！！

「くっそ、、が、、」

まともに立てない、頭がくらくらする

「一夏！！」

シャルが、射撃で十六夜に狙いを付けても

「舐めるなあああああ！！」

ラウラが接近戦を仕掛けても

十六夜は全てが見えているように、

踊っているかのように

冷酷に俺に止めを刺した

「まずは1人」

0（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイムスタート!!

伯夜 おいこら馬鹿作者、なにこっちの小説も約一ヶ月も投稿しなかったんだゴルァ

ライお いやー、この季節は忙しくてさあ、家帰ったら即ベットへGO!! だったんだ

伯夜 しかも何だこの前の小説は、記念とか言って結局はお前を出しただけだったろうが!!

ライお 一回ぐらい自分の小説に出たっていいじゃない!!

伯夜 しるかそんなもん、どこに自分の作品に出で来る作者が居るんだ!!

ライお ここにいる!!

伯夜 だめだこいつ早く何とかしないと

騎士とイケメンと夏休み（前書き）

（俺・ω・）格ゲーしようぜ

（°。友）おk

（俺・ω・）くらえ、超必殺技！！

（°。友）・・・少しは手加減しない？

（俺・ω・）だが断る！！

騎士とイケメンと夏休み

15話 騎士とイケメンと夏休み

└ 一夏目線┘

あのあと、本気の十六夜に手も足も出ずシャルもラウラもやられてしまった、

そんなこんなでしばらくが過ぎ、今日から夏休みなのだが、、

「一夏！！あたしと買い物に行くんでしょ！！」

「おまちなさい！！一夏さん私と参りましょう！！」

「待て、嫁ならばこの私と行くべきだろう！！」

「僕と、、一緒に行かない？」

「一夏、行くならさつさと行くぞ！！」

「ちょ、落ち着けよ皆！！」

街に買い物に行こうとしただけでこんな事になるなんて！！

「おや、皆さんおそろいでどうかしましたか？」

「十六夜！！助けてくれ！！」

「・・・面白そうなので却下します」

そんな、そうだ!!

「十六夜、街でケーキ奢るから!!」

「さあ行きましょう織斑君!!」

そう言う十六夜は俺の襟をつかみ猛ダッシュ、いや猛奪取?した

「「「「あ——————!!」」」」

少年移動中・・・?」

「おい、織斑君、生きてますか?」

「ハッ!!」

こっここは一体時間旅行なんてちやちなもんじゃねえ、もっと恐ろしいもの」

「てめっ!!」

「ぐほ!!」

「目が覚めましたか?」

「あ、ああおかげさまでな」

「さて、約束どおり、ケーキを」

「待った、その前に買い物を買ませたいんだが」

「む、しょうがないですね、いいでしょう」

あ、危ない危ない、止めていなかったら買い物どころの騒ぎじゃなくなるからな、、

騎士とイケメンと夏休み（後書き）

ライお 作者と

伯夜 伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイムレッツゴー

ライお なあああああ

伯夜 なんだ馬鹿作者アホ面さらしてなにやってやがんだ？

ライお テレビが写らない！！

伯夜 何iiiiiiii

伯夜 馬鹿なそんな事が！！

ライお・伯夜 。。（Д）。。（Д）

p v 1 0 0 0 0 突破・・・だと！？・・・前編（前書き）

ライお 伯夜、ついにこの日が来てしまった。

伯夜 ?なんだいきなり

ライお 落ち着いて聞いて欲しい、p v が 1 0 0 , 0 0 0 を突破したのだ!!

伯夜 は?・・・オマエハナニツテンダ

ライお 認めたまえ、これは事実だ。

伯夜 み、認めんぞ俺はこんな馬鹿でアホで間抜けな作者が書いている小説が p v 1 0 0 , 0 0 0 を突破するなど!!

ライお さて、前回の記念小説では蒼夜をいじったから、今回は君の番だな伯夜。

伯夜 へ?

ライお 逝ってこい!!

（俺・ω・）「ドンΣ（・D・伯）

（俺・ω・）ノシ———アッ—————

pv100000突破・・・だと!?!?・・・前編

- 伯夜目線 -

アーーーーー

ベキバキバキバキバキ

「あうあうあうあう」

ドシ

「ふべっ」

「痛え、、、あの馬鹿作者めえ、、、」

「おや? 伯夜君じゃないですか、どうしたんです?」

「蒼夜、あの馬鹿作者の仕業だ、この世界に突き落としゃがった。」

「ああ、なるほど、ん?」

「どうした?」

「失礼、背中に何か、、、これは手紙ですね。」

「見せてくれ。」

（俺・ω・）やあこれを見ているという事は無事に着いたようだね、さて、伯夜、蒼夜、これからその世界にデビルガンダムが行くよ、頑張って撃退してね。

p s 伯夜にもIS送っておくからね。

伯夜・蒼夜「・・・」

伯夜「オイコラアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアア！」

蒼夜「アホサクシャアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアア！」

[illegible]

続
く
！
！

10000pv記念 後編

- 伯夜目線 -

「で、どうするんだ蒼夜？あの馬鹿作者のことだ、嘘でしたーもあれえるが」

「今回ばかりは、分かりませんね本気が嘘か」

「あの馬鹿作者、なにを考えてやがる」

- 作者目線 -

「さて、伯夜のISはどうしよう？」

「Gガンで攻めるか、Wのままか、、、」

まあ、どちらでもいいか

「さてと、デビルガンドムを送らないとね」

伯夜、蒼夜今回ばかりはギャグですまないよ・・・

「さあ、行っておいでデスアーミー」

- 伯夜目線 -

「伯夜君、どうやらあのアホ作者、本気みたいですよ、、、」

蒼夜が空を見上げながら呟いた

「デスアーミーか、」

「まずは、あいつらを倒せって事でしょうか？」

「たぶん、そうだろうな」

デスアーミーがだんだんとこちらに向かってくる

「行きますか、」

蒼夜はそういうと、ISを展開して突っ込んでいった

「あの馬鹿作者、俺のIS忘れてねえか？」

「いてッ」

空から何か降ってきた

「なんだこれ？」

ハート型のコア？

「これが俺のISか？」

お、手紙だ

（俺・ω・）やあ

お待たせ伯夜、君のISだよどんなISかって？

ゴットガンダム、

この一言に限るね！

やっぱりデビルにはゴットだよね！
という事でガンバ！！

「ゴットガンダムか、ゝ、ゝ」

やっぱりあの台詞を言うのか？

右手を上

「出ろーガンダム！！」

ここで指を鳴らす！！

パチンッ

・・・

「て、出ないのかよ！！」

・作者目線・

「伯夜今頃あれやって滑っているんだろうなー」
(俺・・・) 2828

・伯夜目線・

イラ、急にむかついてきたな、
「出るゴット」

眩くように言うと、全身が光に包まれた

「この怒りを、ど・こ・に・ぶ・つ・け・よ・う・か」

ああ、ちょうどいい所にデビルガンダムが、、
蒼夜がデスアーミーをぶつ潰しているから、、

「石・破・天・驚・ゴット・フィンガー!!」

掴む、そんでもって

「ヒート・エンド!!」

大爆 発 ！

「ハーハッハッハッハ」

「おや、終わりましたか？」

「蒼夜、デビルガンダムならこの通り」

「お見事ですな」

「さてと、、行くか」

「ええ、そうですね、、」

「「あの馬鹿^{アホ}作者の所に!!」」

・作者目線・

あーあ、一撃で終わらせるなんて伯夜空気読めないねー

「さてと、あいつらもやってくる事だし、、、、、逃げるか!」

10000pv記念 後編（後書き）

皆さん、これからもよろしくといいたいのですが、、

これからあの二人の殺戮ショーが始まってしまうので、作者が生き
ているか分かりません

いきていたら、また会いましょう、では!!

黒騎士お買い物中（前書き）

（俺・ω・）帰ってきました!!

（；・伯）帰れ！

黒騎士お買い物中

・一夏目線・

「さて、ではいきましょうか、一夏君」

十六夜が進みはじめる、

「なあ、十六夜何を買いにいくのか知ってるのか？」

「？何でしたっけ？」

「はあ、今度臨海学校に行くだろ？その準備のために買いものに行こうとしてたんだよ」

「それって、水着もですか？」

「ああ、俺の水着の小さくなってたし行くか！」

「・・・一夏君、君はやっぱり変体ですね」

うえ？

「何でだよ！！」

「気がついてないんですか？あのメンバーで行こうとしてたのに、」

「あのメンバー？」

黒騎士お買い物中（後書き）

ライお 作者と

伯夜
伯夜の

ライお・伯夜 わいわいあとがきタイムはじまるよー

ライお 帰ってきたぜー ヒャッハーーーーー

伯夜 黙れ、むしろ滅べ！

ライお あぶしっ

伯夜　また、こんなにも休みやがって、謝れ！皆さんに謝れ！！

ライお
だが断
ry

伯夜死ね！！

ライお
びや ああああうまい
いいいいいいいい

伯夜 皆様、申し訳ございませんでした、馬鹿作者に代わってお詫
び申し上げます

伯夜　もしよろしければこんな駄作でも読み続けてやってください、
お願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4688q/>

IS - インフィニット・ストラトス - 黒の騎士 The Black Knight

2011年6月3日20時20分発行